

# 久保田賢一先生の定年ご退職にあたって

総合情報学部長 名取 良太

久保田賢一教授が定年を迎えられ、ご退職になられました。それにあたり、先生のご功績を紹介し、感謝の辞を述べさせていただきます。

先生は、中央大学理工学部物理学科を卒業後、高校教員、JICA 海外協力隊を経て、インディアナ大学大学院教育システム工学専攻に進まれ、1991年9月に Ph. D (Instructional Systems Technology) を取得されました。そして、1994年4月総合情報学部の開設とともに助教授として着任、1998年4月に教授に昇任され、その後長きにわたり総合情報学部の研究・教育にご尽力いただきました。

先生は教育工学、なかでも学習環境デザイン、国際教育開発、開発コミュニケーションをご専門とされ、従来の知識をため込む学習に代わり、学生の問題解決能力（問題を発見し、情報を収集し、それに基づいて問題を解決する能力）を高めるような新しい学習スタイルに必要な環境や、そのデザイン方法について研究され、数多くの著書・論文を残されるだけでなく、文部科学省サイバーキャンパス整備事業や大学院教育改革支援プログラム（大学院 GP）といった大型の研究プロジェクトに研究代表者として携わってこられました。また、教育メディア学会会長や教育工学会理事も務められるなど学会活動も精力的に行われてこられました。

私が賢一先生に対して抱くのは、著書・論文を通じた理論的貢献もさることながら、実践的な面でも大きな貢献をなさっていたというイメージです。一貫して国際協力に関わり続け、フィリピン・ミャンマーなど途上国における教育環境の改善を進めてこられました。大学院ゼミには多くの外国人研究生・留学生を招き入れ、大学院生やゼミ生が国際理解を深めるきっかけを与えてこられました。また、国内でも教育現場の先生達と協働してプロジェクトを展開し、学習環境を実際にデザインされていらっしゃいました。研究を通じて、多くの子供たちに素晴らしい学習環境を提供され続けてこられたのです。

もちろん、ご自身も教育者としてたくさんの財産を残されました。国際交流プロジェクトに関わっていたゼミ生たちは、いつも夜遅くまで大学に残り、充実感に溢れた笑顔で海外での苦勞を（実に楽しそうに）話してくれました。特筆すべきは、大学院プロジェクトから多くの研究者を輩出されたことです。普段ニコニコされていたいらっしゃる先生でしたが、大学院生への指導は大変厳しかったようです。修論・博論の提出時期になると、大学院生の部屋には重たい雰囲気や不満が充満し、たまたま通りがかった私は思わず声をかけ、励ましてしまうこともありました。そんな院生たちの多くが、いまでは立派な研究者として全国の大学で教壇に立っています。先生ご自身の教育実践がまさに身を結んだものと思います。

賢一先生が残された数々の功績は、総合情報学部・総合情報学研究科の礎となり、未来へと必ず受け継がれると確信しております。先生のごこれまでのご貢献に深く感謝するとともに、先生のますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。